

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370700573		
法人名	株式会社 パンフィック		
事業所名	グループホーム まりん		
所在地	名古屋市昭和区恵方町1丁目17番地ー1		
自己評価作成日	令和4年1月8日	評価結果市町村受理日	令和5年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2370700573-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の特徴を生かして家庭に近い、くつろいだ雰囲気を作っています。料理もおやつも手作りで健康に気遣った
 また季節に合ったものを提供しています。パンフィックが経営する事業所が徒歩5分圏内に3事業所あり連携を 図っています。3事業所合同のイベントを開催したり管理者会議で意見交換しサービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの方針として、重度化にも可能な限り対応している。重度化した利用者は2階の居室から1階にある専用の和室に移り、皆に見守られながら暮らしている。今年度は3件の看取りを行った。コロナ禍で、「入院すると面会ができない」との家族の苦悩を受け止め、重度化した利用者を法人内の小規模多機能事業所から受け入れた。家族の面会を継続しながら看取りを行い、希望を叶えた。
 外国籍の職員が殆どのため、管理者は分かりやすい単語や言葉に噛み砕いて個別に指導したり、話を聞いたりして育成に努めている。一方で、国民性による明るさや献身的なケアは、利用者の笑顔と元気を引き出している。1ユニットのこじんまりとしたホームであるが、家庭的で、終の棲家としての安心感が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「一人一人に合った、その人らしい生活を営んでいただく」として、一人一人の個人の尊厳を守りながら、家庭的な環境作りを心がけている。また月1回の会議を通し、本人様にあった生活を職員で考えている。	職員のほとんどが外国籍のため、理念の意味合いを噛み砕いて分かりやすい言葉に置き換え、職員一人ひとりに個別に伝えている。自分がされたくない事はしない、できる事は自分でやってもらうよう伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われる敬老会、運動会に参加しており、近所の小・中学校の行事などにも積極的に参加している。	コロナ禍で地域行事が全て中止となり、散歩も含め外出は一切控えている。そのため、1回開催された運営推進会議が地域住民との唯一の交流機会となった。災害時にはホームが連絡拠点となり、連携を図る事になった。	交流が困難な状況にあるが、このような状態が長期化することも考慮に入れ、地域との繋がりを継続していく取組みへの検討も必要であろう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接的な取り組みは行っていないが、町内会などに参加した際に、近所の方から相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見は、申し送りや会議の場を通し伝え、サービスの向上にむけて話あう。	近隣にある同法人の2事業所と合同で、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て1回開催した。法人として、小規模多機能事業所の倉庫を町内備蓄倉庫として提供する申し出をした。	今年度は運営推進会議開催が1回のみとなった。行政にも相談して、年6回開催することを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当の方とは積極的に連絡を取っている。また地域包括センターが推進会議に参加しサービスの向上に向けて話し合いがもたれている。	計画作成担当者が区主催の認知症専門部会に参加し、意見交換や情報収集をしている。利用者に生活保護受給者がいるため区・保護課職員とも密に連携している。地域包括支援センターからは利用者の紹介がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては行わないケアを心がけている。現状身体拘束は一切ありません。	同法人3事業所の主任以上の職員が参加して、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。外国籍の職員に、内容を文章で周知することは困難なため、管理者から口頭で職員一人ひとりに伝えている。日常業務中の気になる場面では、その都度管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員ではないが、研修に参加し会議の場などで職員に対し、フィードバックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方はいないが 今後もさらに活用できるよう学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の際管理者が契約書及び重要事項説明書を読み合わせ、説明し、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方に関しては、日々の会話を通じて。御家族に関しては、面会の際や食事会といったもので意見を聞く機会を設けている。	利用者の希望は日常生活の中で聞き取り、家族の要望は面会時や随時の電話で聞き取っている。感染予防を図りながら、感染状況に応じて家族の面会や差し入れは、可能な限り継続できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的には管理者が受け、その後代表者へ報告し、代表者と管理者の会議の場で話し合う。	今年度は職員の入れ替わりが多く、管理者が個別に指導して職員の育成に取り組んでいる。職員は場面ごとに質問を投げかけ、管理者はその都度指導し、褒めたり注意喚起をしたりしてコミュニケーションを深めている。	管理者は、コミュニケーションの障壁から開催を取りやめていた職員会議を、開催したいとの意向を持っている。話し合いの場が持たれることを大いに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の申し送りの中で、代表者に報告。会議の場や、個々との話し合いによって話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関しては、会議の場で話し合っている。また個々にあった研修を推薦する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他の施設との交流に参加している。その場でいいと思う事に関しては、実行できる様に環境を整える努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時家族と一緒に雑談をまじえてお話を聞く。またお茶などを一緒に飲みながら、リラックスされた状態でお話を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際にご家族の要望等を聞く機会を設けている。入所者のご様子等こまめに電話等で報告する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族のお話を聞き、カンファレンスや会議などの場で話し合い必要に応じてサービスを提供している。(現在では訪問マッサージの利用等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に関して家族の様な関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に関しても遠慮なく発言をしていただく様に努めている。またご家族の希望によりご家族が宿泊して頂く機会を設けた方もいる。コロナ禍においても面会の機会を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事にお誘いし、いつでも訪ねてきていただくよう面会時間などは設けていない。	利用者と家族等の来訪者とが一緒に食事が摂れるよう、会議室を開放している。同居家族以外の親族の面会は、管理者が電話で話し合いの上判断している。宗教上の習慣や、好きな事が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通し、輪の中で生活して頂く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などに元利用者の御家族にも招待状を送っている。また面会等を通じ相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通し、会議やカンファレンスで話し合い検討している。	入居時の聞き取りや、日常生活の中で利用者の要望を把握するよう努めている。入浴や排泄の介助時は、聞き取りの良い機会と職員は感じている。利用者の生活歴や家族の話も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前は独居していた方が多いが会話を通じて把握に努めている。またご家族から情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、状態の把握に努めている。また申し送り等で職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とは日々の会話にて意見を聞く様になっている。また御家族に対しても、面会の際に状態の報告を行い御家族様の希望もカンファレンスの場で話し合い反映している。	6ヶ月毎に計画作成担当者が利用者本人や家族の意向を聞き取り、職員意見も個別に聞き取って介護計画を立案している。支援内容の実施記録が明確でなく、モニタリングも行っていないため、継続となる介護計画(目標)が多い。	介護記録の取り方を検討して支援の実施記録を明確にし、定期的にモニタリングを実施することを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランに関しては、毎日個別のカルテに記入している。また申し送り、会議、カンファレンス等の意見を共有する場を多くし、見直しを行うようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の病院への付き添い介助、ご家族の状況や、希望に添える様な支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の小学校、中学校などの運動会へ参加。 また、餅つき大会、敬老会などにも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族の希望を聞き、かかりつけ病院への受診へ同行し日常の状況等を適切に伝え、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム協力医による月2回の訪問診療で、内科と皮膚科、整形外科に対応している。その他の専門科への受診は原則家族対応とし、必要に応じて職員が同行して支援している。週1回の口腔ケアと月1～2回の歯科医の治療も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に観察し何か気付く事があれば、看護師や往診医に相談をしながら適切な受診を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には担当医や御家族から状況を把握し退院に向け、受け入れ態勢を作る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を契約時に書面上にて説明している。またそのような場合になった際には御家族との話し合いの場を設ける様にしている。	入居時にホームで対応できる範囲を説明し、看取りにも対応することを伝えている。利用者の様子を見て、積極的にホーム協力医に検査や家族との面談を依頼している。今年度は小規模多機能事業所からの受入れ事例を含め、3件の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはと言えないが職員が順序 研修を受けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制の取り組みは始めたばかりだが、職員の避難訓練は以前より定期的に行っている。運営推進会議で地域の代表と話し合っている。	消防署の指導の下、消防計画書を新たに作成し直し、消防署へ提出した。3事業所で1回合同訓練を行い、初期消火の方法を説明した。外国籍職員が多いため、消防署からの助言により、通報訓練を行う予定である。	ホームはオール電化であるため、管理者は停電に懸念を抱いている。灯りの確保や調理器具等、早急に見直す必要があるであろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者個人個人の人格を把握し日々言葉かけに関し気を付けている。	外国籍職員は、利用者から日本の行事や習慣について学ぶことが多く、それが利用者の自信や喜びに繋がっている。利用者に優しく明るく接し、入浴や排泄介助時には羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を主張できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った生活を送ってもらおうと努めているも、個々にあったペースでは出来ていない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の化粧水等、こだわりがある方に関しては、一緒に買い物へ行く等の支援は行っている。 髪のカットや毛染めなど定期的に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業に関しては出来る方に行っているだけよう声掛けをしている。	食材の在庫状況を見ながら、2～3日毎に買い出しに出かけ、調理専任職員と栄養士の資格を持つ職員が相談してその日の献立を決めている。利用者の好みにも配慮し、季節感のある家庭料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常時水分摂取量、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っている。週に一度歯科衛生士による口腔ケア、月に一度歯科医師による往診行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方に関しては定期的なトイレ誘導も行っている。排泄のパターンを把握の為排尿チェック表も使用。	利用者一人ひとりの自立度や、その日の様子を見ながら声掛けてトイレへ誘導している。自立している利用者からも報告を受け、できることは自分でやらせようことで、自立度の維持を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用や便秘がちな方に関しては水分を多く摂取していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては体調に考慮し基本的には1日おきに入浴していただく。また、その方一人一人にあったタイミングで入浴していただく。	脱衣所の温度に気配りし、1日おきの入浴を基本としている。入浴拒否には無理強いすることなく、時間を置いたり声掛けを工夫して対応している。柚子湯などの季節湯や、昔話をして寛ぎの時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に対し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時全職員に状態の変化等伝えている。又、内服薬に関しても、処方箋を元に目的や副作用等理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持っていただけるように努めている。また、外出、買い物、行事など気分転換も行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、希望に沿った支援が出来る様には努めているが、一人一人にあったものとは言いえない。ご家族には協力して頂いている。	感染予防を優先し、外出支援は散歩も含め一切行っていない。その人の好きなことをしたり、室内レクを充実することで、利用者の気分転換を図っている。感染状況が落ち着いた時を見計らって、家族支援で外出に出かけた利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	過去には小額の金銭は管理されていた方もみえたが、現在では金庫保管となっている。近所に買い物へ行った際に支払いをしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的に使用していただけるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、光のなど季節、時間を考慮し居心地がよいよう調整。また季節感を取り入れるよう花を飾ったりしている。	見学なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の広さの問題で一人になられる場所を作るのが難しい。気のあった入居者の方とは思い思いの場所にてコミュニケーションをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には入居の際には馴染みのある家具や布団といったものを持ち込んでいただくようにしている。また居室で猫を飼っている方もいる。	見学なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば歯ブラシなどに関しては名前を解りやすい様に書き込み口腔ケアの自立や御自分のものだという、認識ができています。		